

JOA の財政の現状と将来に向けての取り組み

専務理事 村越 真

本ウェブの内容は、JOA ニュース 2007 年 7 月号に掲載された、「オリエンテーリング愛好者の力で JOA を支えてください」を補足するものですが、本記事のみでも、JOA の財政的現状と、将来への取り組みが概観できるように書かれています。

1. 予算規模と収支の現状

JOA の収支の状況を見ていただくため、2004 年と 2006 年の収支決算書の概要を比較しました。この概要は、全体の構造を分かりやすく示すため、額の小さい項目を一部省略している他、決算書では別項目になっている指導者関係の収支を統合したり、会費から半額各会員に戻される組織育成費等を除いた実質的な数値で統一してあります。

【全般的な事業規模の縮小】

収入を見て一見して分かることは、会費を除くほとんどの項目で、事業規模が縮小している点です。会費については、正会員からの会費は定額ですので、60 万近い伸びは個人または団体による賛助会員の増加によるものです。

	平成18(2006)年度	平成16年(2004)年度	
収入			
会費(組織育成費除く)	2480000	1880000	
事業(競技関係)	2190800	10064900	
事業(指導者関係)	3909240	6773250 (講習会受講料約100万円)	
競技者登録	1102500	1208550	
委員会	1,999,270		
事業(その他)	1589725	3432404	
その他	884,767	3710311	
収入合計	14156302	27069415	
支出			
競技会運営	1443810	8381741	
その他事業	2037973	4896171	
指導者養成	268029	2385365 (講習会経費約150万)	
委員会	2,182,574		
管理費	7988657	8899061	
特別事業他	663867	9974473 (退職金約800万)	
支出合計	14584910	34536811	
事業単位の収支			
会費	2480000	0	1880000
事業(競技関係)	746990	0	1683159
事業(指導者関係)	3641211	0	4387885
競技者登録	1102500	0	1208550
事業(その他)	-448248	0	-1463767
委員会	-183,304	0	0
管理費	-7988657	0	-8899061
特別事業	-663867	0	-9974473

事業費(競技関係)の大きな減少の一因は 2006 年度の全日本大会が年度外に行なわれたこと、西日本大会が行なわれなかったことによるものです。他方、公認大会にかぎらず、近年競技者と大会参加者が漸減傾向にあることも大きな要因となっています。

事業(指導者関係)の減少の大きな部分はたまたま 2004 年度に 4 回のディレクター講習

会が開催されたことによりますが、恒常的な要因としては、ディレクターの減少があります。2005年度末に、指導者制度以降後初の登録更新が行なわれ、旧登録期間4年間中の研修等受講を更新の条件としました。本来研修の受講義務は取得時にも明示されているものの、その周知が不徹底だったことも考慮し、大会参加等も研修受講に準ずるものとして扱ったものの、多くの2級ディレクターが、このための更新を見送ったものと思われます。この2級ディレクターの多くが、旧制度からの移行時に3級指導員から簡便な研修で移行した指導者であることを考えると、今後オリエンテーリングの発展を支えるために必要な指導者の質の維持という点から、ある程度の指導者の減少はやむを得ないものと判断されます。

【委員会活動による活性化】

委員会の収支項目は2005年度の決算から設けられたものです。これはこの年度から、委員会に実務委員会としての機能を持たせ、普及発展に必要な事業を自律的に進めるよう組織を見直したことによるものです。JOAは日本のオリエンテーリングを統括する組織として、多くの事業を推進しています。旧来こうした事業の多くは事務局まかせでしたが、マンパワー的にも不十分な事務局のみでは、事業の多くが停滞しがちでした。委員会が実務化することで、競技・地図関係の研修会の充実、指導者研修の充実、広報（JOAニュース等）などが実施されたことは、ご存じのとおりですが、その他にも、選手強化、トレイルやスキーオリエンテーリングの普及・発展、アンチドーピングなど、オリエンテーリングの知名度向上のための活動が活性化しています。また、財務委員会、組織強化委員会により、財務・制度的な問題点についての取り組みも一定の成果をあげています。

【節約が進む管理経費】

支出項目にある管理費は、主としてJOAの事務局を運営するために必要な経費です。主な内容は、事務局員の人件費（2006年度で概ね370万円程度）と事務所の維持費（概ね160万円）に加え、全国各ブロックから集まる理事会旅費（約70万円）となっています。さらに2006年度においては、2005年度にさかのぼって滞納していた消費税の支払いが発生していることに留意が必要です（2年分+延滞料で概ね100万円）。この点を考慮すると、事務局の管理経費は、2004年と比較して実質150万円強の節約が実現しています。また、他の事業項目ごとの収支を見ても、少ない収入に対して大きな支出削減の努力がなされていることを見とることができます。

【まとめ】

全体的な事業規模の拡大を目指すことは重要な課題ですが、一方で、支出に関しては、2007年度予算では、これまで年3回であった理事会を2回に減らすことも含め、ぎりぎりまで節約が進んでいます。事業拡大のためにも、その元となる収入を確保することが必要な状況です。

2. JOAのミッションと課題

組織の財政的な面からも、愛好者(登録者)の増加は JOA が避けて通れない課題ですが、同時に長期的ミッションとしても、JOA は「愛好者の増加」「愛好者の満足」「社会的評価の向上」を挙げています。これらは、単独でなしえることではなく、3者が互いに影響しあってこそなしえると考えられます。また一朝一夕になしえるのではなく、長い時間をかけた地道な努力が必要です。

【様々にある普及領域】

普及の対象にしても、様々な領域が考えられます。一時は学校教育やその一部として行なわれていた自然体験活動でオリエンテーリングが広く取り上げられていましたが、現在の教育状況に合わない点やその拠点である野外活動施設への新たなプログラムの提供を怠ったことなどから、学校教育でのオリエンテーリングの活用は停滞しています。パーク O やトレイル、その他合宿等の中で開発されたオリエンテーリングのバリエーションには現代の学校教育が必要としている多くのものを提供できる可能性があります。近年のオリエンテーリングの持つソフトを活用し、再び学校教育や野外活動施設へのオリエンテーリングの普及を考える時期でしょう。

【他のアウトドアスポーツとの交流】

他のアウトドアスポーツとの交流は、日本におけるオリエンテーリングの黎明期こそ、登山との間にある程度のものがあつたようですが、近年までほとんどなされていませんでした。21世紀に入って、MTB オリエンテーリングや、オリエンテーリングのバリエーションであるロゲイニング、アドベンチャーレースなどを通して、他のアウトドアスポーツとの関係は深まりつつあります。また最大規模のアウトドアスポーツである登山との関係においても、オリエンテーリングが蓄積した読図・ナビゲーションスキルというソフトは有用に活用されるべきでしょう。

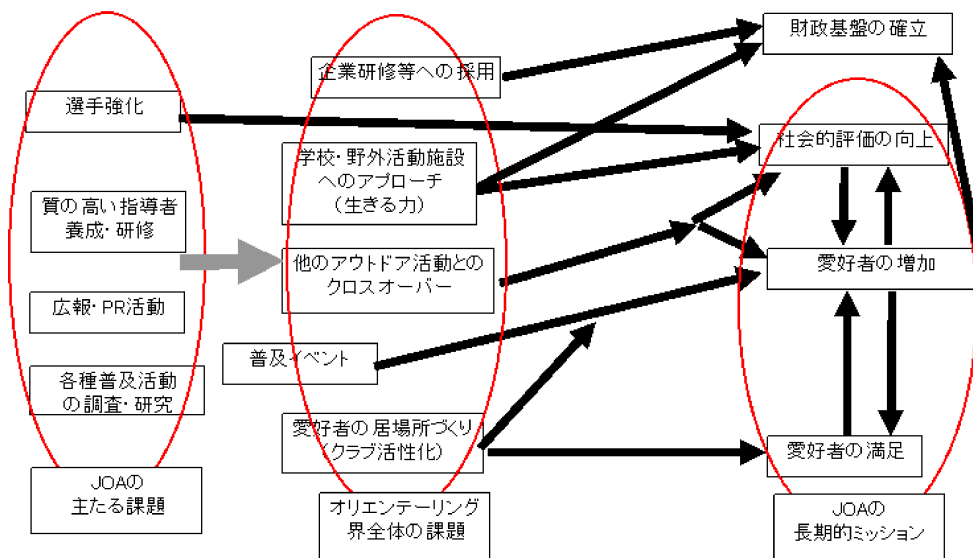
【企業研修への活用】

企業研修でオリエンテーリングが実施された事例は時々耳にしますが、この面でも現在のオリエンテーリング界が抱えるソフトは有効に活用できる可能性があります。この6月にある大企業で行なわれた研修では、オリエンテーリングのバリエーションを「チーム/ナビゲーション」という名称で実施し、単にレクレーションとしてではなく、仕事への気づきにつなげやすい良い研修内容であるという高い評価を受けました。

【JOA にできること、オリエンテーリング界全体で取り組むこと】

こうした活動は JOA というよりは、むしろオリエンテーリング界の指導的立場にいる人や先進的な事例に積極的に取り組むクラブ等の集団によって試みられています。これらが大きく広がっていく場合にも、狭い意味での JOA よりも、日本のオリエンテーリング界全体で取り組むべき活動です。各都道府県協会や、地域クラブがこうした普及・発展のための活動に取り組み、なおかつそれが義務としてではなく、オリエンテーリングの楽しみの一貫となるような環境づくりは JOA の重要な任務だと考えています。そのためにも、指導・

普及方法の調査・研究、それをオリエンテリング界全体に広げるための研修会や教材の提供、有意義なソフトの存在を知らしめる広報活動などの活動の展開を開始しています。



【JOA およびその周辺における具体的取り組み】

学校向けミニオリエンテリング研修会の実施

登山者向け読図講習会

野外活動施設向け PR リーフレットの作成・送付

現在のオリエンテリング界にマッチした指導者養成への改訂

競技・地図に関する研修会の実施

公認大会制度の改革

定款改定による地域クラブの位置づけの明確化（取組中）